所沢図書館だより
復刊3号（通巻81号）
題字　高橋　玄洋　氏

復刊 いずみ

目　次

P.1　多彩なイベント盛りだくさん!!
P.2～3　田村　均氏講演会
P.4　高嶋哲夫氏講演会
P.5　薄井ゆうじ氏講演会
P.6　図書館活用法
P.7　あなたの街の図書館から
P.8　ボランティア登場など

多彩なイベント盛りだくさん!!
～所沢図書館まつり～

木々の色づく秋、所沢図書館では、10月13日（土）から11月25日(日)までの1ヶ月、本館・各分館で「図書館まつり」を開催いたしました。

いつもよりちょっと趣向を凝らした「おはなし会」や「大人向けのブックトーク」、日ごろは見ることができない図書館の裏側を探検する「館内めぐり」や実行委員手作りの「どんぐりおみくじ」など、各館でいろいろなイベントを行いました。その時の賑やかな様子を写真でご紹介します。

また、次ページからは特集として講演会の様子をご紹介します。

トコろんと
ひばりちゃんも
きてくれたよ!

どんぐり
おみくじ
（本館）

ぬいぐるみ
おとまり会
あれ、ねぞうの悪い子もいるね。（富岡分館）

♪ミニコンサート♪
美しいギターの調べ
（本館）

大人のためのブック
トーク（椿峰分館）

館内めぐり
~初めて入る書庫の中~
（本館）

工作：飛びだす絵本作り
（所沢分館）

おはなし会
（狭山ヶ丘分館）

おはなし会（新所沢分館）

図書館まつり前夜祭講演会　平成24年10月13日(土)

武州所沢発！

幕末維新の流行木綿

埼玉大学教授　田村　均　氏

こんにちは、田村と申します。私は若いころ、所沢市史編纂に携わり、何度も旧市役所に足を運びました。懐かしい所沢の地で、所沢飛白についてお話させていただくのをとても嬉しく思います。

今日は、幕末から明治に至る綿織物の歴史についてお話しますが、午前は、川越唐桟（かわごえとうざん）と結城縞（ゆうきじま）、午後は所沢飛白（ところさわかすり）と二部構成になっています。長丁場ですが、よろしくお願いいたします。

第一部　川越唐桟と結城縞

川越唐桟と結城縞ですが、本題に入る前に、歴史的な背景を見ていきたいと思います。江戸時代の末期に通商条約が結ばれ、開国しましたが、外国から何が輸入されたかご存知ですか？第1位が、毛織物、第2位が綿織物、第3位が武器、第4位が艦船です。

毛織物はともかくとして、綿織物が2位です。日本は、木綿の国ですよね。でも、外国からたくさんの綿織物が入ってきていました。日本人は、縞模様が好きだということをヨーロッパ諸国はちゃんと把握していて、スイスなどで日本向けの綿織物が盛んにつくられていました。

1位の毛織物も、当時の錦絵を見ると、帯や襦袢（じゅばん）などに使われていたのがわかります。

また、富岡製糸工場の研修工女だった、和田英さんの『富岡日記』（和田英著　森まゆみ解説　みすず書房）に、当時の若い女性の正装や晴れ着が紹介されていますが、正装の材質が、メリンス、フランネル、呉絽（ごろ）、ラシャなど多種にわたっています。日本では出せなかった鮮やかな赤い色の毛織物が入ってきて、若い女性が好んで着ました。

綿織物は、江戸時代後期、密貿易などで、インドのセントトーマスで作られていた織物から転じたサントメ織と呼ばれる綿織物が、入ってきていました。唐サントメとか唐桟織とか呼ばれ、やがて、京都で生産されるようになり、それが伝わり、現・愛知県の尾西市、群馬県の桐生、栃木県の足利、そして埼玉県の川越で生産されるようになり、三大生産地となりました。

幕末の嘉永4年に、川越商人が入間郡周辺の仲間を集め、入間扇町屋に「扇町屋縞買仲間」という織物の組合を作っています。近郊の青梅には、青梅縞という綿織物を生産する「青梅縞買仲間」、八王子には、「八王子縞買仲間」があり関東のこの地域に特産物の生産が集中していることが伺えます。

川越唐桟の特徴は、細手の綿糸や生糸、紬糸を組み合わせる織り方で、良質な綿糸を取り入れた高級感ただよう縞にあります。とても、ハイカラな縞のデザインでこれが似合う人は、そうそういないのではと思います。それに比べ、結城縞は、唐桟より地味な色合いです。結城というと紬（つむぎ）を思い浮かべる方が多いと思いますが、結城紬は絹織物で、とても高級品です。庶民には手が出ません。結城縞は綿織物で、結城紬のように軽く値段も庶民向けでした。地味な色合いがシックで、粋を好む江戸っ子に愛されました。たしかに、結城縞の方が、万人に合うと思います。しかし、綿糸のほかにも絹糸を入れたりして、実は、地味だけど派手な面もあったのです。

川越、入間、青梅、そして、所沢と、幕末から明治にかけて、綿織物業の三大産地の一つであったことは、とても素晴らしいですね。

ストライプ模様の好きな日本人のデザインのルーツになっているのではないでしょうか。

第二部　所沢飛白

午後からいよいよ所沢飛白についてです。

本題に入る前に、皆さんは『武士の家計簿』(磯田道史著　新潮社)という本をご存知ですか？映画にもなりましたね。ここに、天保13年の結城縞小袖の値段が載っています。現在価格で28万円です。結構高いですよね。

さて、狭山丘陵の南北に渡る村々で織物が盛んになり、川越唐桟や結城縞、そして所沢飛白が作られていました、

明治33年に武蔵織物同業組合が、旧協和銀行の場所にできました。所沢にはもう一つ、旧小澤砂糖店あたりに、武蔵飛白同業組合がありました。大きな組合が二つもあったのは所沢だけです。川越にもありましたが、浦和の支部があっただけです。

関東周辺の絣の産地は、館林市の中野絣、越後の小須戸絣がありますが、単独の組合を持ち、紺絣のみ生産していたのは所沢だけです。関西方面では、久留米絣、伊予絣ですね。全国的に見ると、久留米絣、伊予絣、そして所沢飛白という順でしょうか。

明治30年の生産量は80万反で、同39年には100万反に達しました。

その後、備後絣が伸びてくるのですが、技術指導をしたのが、入間扇町屋の郡立染織講習所の技師だった江頭金一郎という人です。

幕末の庶民にとって、唐桟や更紗（さらさ）、呉絽（ごろ）、久留米絣は高嶺の花でした。生産者は、品質の良い高価な品にあこがれて、それに近づけたものを生産するようになっていきます。

川越唐桟にしても結城縞も所沢飛白も、一言でいうと、まがいものです。でも、悪い意味ではなく本物に品質を近づけて庶民でも買える値段で生産したもので、決して粗悪品というものではありません。

明治時代の所沢飛白は、勝楽寺物とか武蔵絣、擬薩摩（まがいさつま）などと呼ばれていました。所沢飛白と呼ばれるようになったのは、大正時代になってからです。全国で〝飛白〟の名称を使っているのは、所沢だけです。

庶民が絣を買おうとしたとき、高級品なら久留米絣、中級品は所沢飛白、その下が伊予絣でした。そのうち、伊予絣に追い抜かれ、備後絣などが出てきて衰退していくのです。

明治後半、染料のことでいろいろありました。正藍染めだけでなく、幕末には化学染料が入ってきたのです。武蔵村山の芋窪などは早い時期から化学染料を入れてきました。所沢の組合では化学染料を禁止していました。八王子には染織学校がありましたが、所沢あたりにはありませんでした。いろいろもめましたが、時代的にインディゴピューア（合成藍）以外の化学染料も使わないわけにはいかなくなり、明治43年に化学染料（硫化染め）を許可しました。

所沢飛白は、唐桟や結城縞より太い糸を使います。緯糸は経糸より太い糸を使い本数を減らすぶん、価格が下がります。久留米絣は、緯糸も経糸も同じです。染料も正藍です。だから高価なんです。

紺絣の産地では、それを発明したとされる女性が必ずいます。久留米絣は井上伝さん、伊予絣は鍵谷カナさんです。伝承も顕彰碑もあります。でも、所沢は、２人なのです。東大和市芋窪の荒畑シモさん、武蔵村山市中藤の内野マサさんです。発明したきっかけとして、紺絣が雨にあたり、雨のしずくの跡を見て思いついたというものです。これは、あとから作られた話のようですが、あり得ると思います。なぜなら、紺絣が補助染料を使っていたということです。

最後に所沢飛白の特徴をまとめましょう。まず第１に、二つの組合があったということ、２番目に、飛白という名称を使い、所沢地区のみで生産していたということ、３番目に、一本絣であったということ。現在は、衰退してしまいましたが、幕末から大正にかけて全国に出回った所沢飛白を大いに誇りに思い、自慢してください。

参考文献

『川越商都の木綿遺産』川越織物市場の会編　『所沢飛白』宮本八重子著

狭山ヶ丘分館図書館まつり講演会　平成24年11月24日（土）

「私たちの防災・減災」　高嶋　哲夫氏

11月24日（土）午後2時より、小説家の高嶋哲夫先生をお招きして「私たちの防災・減災」というテーマで講演会を行いました。

神戸市在住の高嶋先生は阪神・淡路大震災を経験され、その後『M8』（エムエイト）、『TSUNAMI津波』など災害をテーマとした小説を多数執筆されました。

昨年3月の東日本大震災にも取材に赴かれています。講演はそのご経験や執筆活動を通して得られた知見をお聞かせいただく、またとない機会となりました。

★　講演から　★

阪神・淡路大震災
当日のこと、直後のこと

朝方、ドスンと衝撃が来て本棚から本が落ちてきました。リビングに行くと家族が集まっていて、しばらくすると、近所も騒がしくなってきました。

しかし、電気も水道もガスも止まってしまっているので、地震だということはわかっても規模や範囲がまるでわからず、昼頃になってようやく電話が通じ、状況がわかりました。

交通も緊急車両優先のため一般の利用は制限され、封鎖が一部解除されたのは一週間ほど経ってからでした。連絡の取れない友人のところへ車を走らせましたが、震災前は一時間余りで行けたところへ半日かかってしまいました。

道すがら見ると、長田地区は焼け野原で何もなくなっていました。あちこちに花が手向けられ、連絡のつかない人へのメッセージを書いたメモが置かれたりしていました。

友人の家もつぶれており、メモを残して帰宅したところ、無事だとの電話がありました。二階に寝ていた友人は、起きたら目の前に天井があったと言っていて、「些細なことが生死を分ける」ということがよくわかりました。

災害をテーマに小説を書く

地震をテーマにした小説を書こうと調べ始めて、地震は恐ろしいもの、地下のプレートに溜まったエネルギーはいずれ100パーセント地震を起こすというものだとわかりました。

そうして、地震を題材に執筆したのが『M8』（集英社・'04年）という作品です。続く『TSUNAMI 津波』（集英社・'05年）、『東京大洪水』（埼玉福祉会・'12年）の三部作で、地震・津波・台風のすべてがわかるように書きました。

《災害への備え》

日々の中でどのように防災の備えをすればよいのか。参加者からの関心も高かったと思われるこの点についても、高嶋先生から、刺激的で、現場を知る人の重みのある提言が次々に飛び出しました。

「防災グッズより必要なものは」

地震の際にまず必要なのは、崩れた建物から人を助けるためのスコップやつるはしなのだそうです。そして、一番大事なのは丈夫な家。

「日ごろから災害について知るようにする」

震災についての写真を見るだけでもよいそうです。

「自分だけは大丈夫という考えを改める」

自分だけは大丈夫と思ってしまいがちな、無意識の油断を戒められていました。

そして備えの一つとして、**「僕の本を読もう！」**とおっしゃっていました。

本を読んで、災害の疑似体験をすることも備えの一つといえます。皆様も、機会がありましたら、高嶋哲夫先生の著作をお手に取り、震災や防災についてお考えになられてはいかがでしょうか。

富岡分館図書館まつり講演会　平成24年11月11日（日）

「小説という遊び」

薄井　ゆうじ氏

こんにちは、薄井ゆうじです。本日は小説というテーマですが、みなさま遠慮なさらず、笑っていただいてかまいません。（笑）

前半は「小説を書く話」、後半は「小説を読む話」と分けてお話したいと思います。

なぜ小説を書くか

なぜ小説を書くことになったかですが、私は父親の職業の関係で、学生時代までに24回引っ越しをしました。今と違って学期の途中での転校があった時代ですので、転校した日に遠足なんてこともありました。

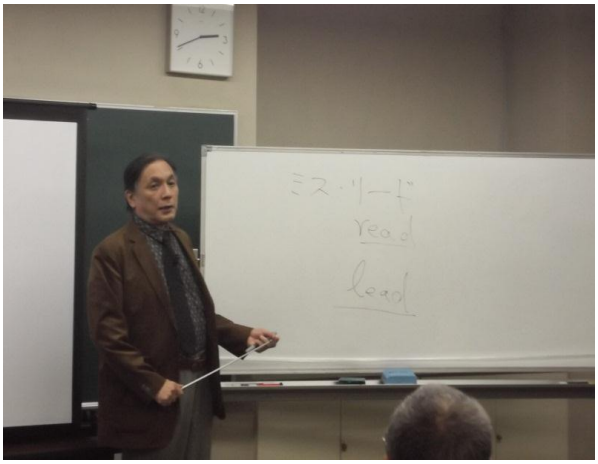
こういった生活の中で、友だちが少ないので学校の図書室から本を借りて読む習慣と、この人はどういう人だろうという、人を見抜く力がついていきました。

以前、イラストレーターをしていたことと関係があるのかもしれませんが、私はイメージが映像化して見えます。映像を小説にしているだけなのです。

以前、イラストの会社を興したのですが、小説が書きたいと決意し、3年だけ頑張ってみようと考えて会社を辞めました。

その後、賞をいただけたのですが、賞を獲ってから仕事を辞めたのではないのです。

そして、なぜ小説を書くかといえば、それは人に元気になってほしいからです。悲しい話でも、それで人が元気になってくれたらと思っています。



小説を書く話

小説を読む話と書く話は表裏一体ですが、小説を書くにあたっては、読者に対して正確に作者の意図を読み取れるようにすることが必要です。例を挙げます。

みなさん、ウナギ文というものをご存じですか。これは日本特有と言ってもよいものです。たとえば、食事に行ってメニューを選ぶ際、「僕はウナギ」ということがありますよね。これを英語の文法でいうと「アイ・アム・ア・ウナギ」（私はウナギです）となってしまいます。（笑）小説で文字にする場合には注意が必要です。

小説は、フィクションですが、リアリティを出すためにA市ではなく、○○市と名前を付けます。高齢者のセリフだからと言って、「～じゃよ」なんて表現は使いません。

小説を読む話

小説には結末を読者の判断に委ねるものもあります。私の作品に「残像少年」というものがあります（『透明な方舟』講談社に収録）。この小説もこのタイプのものですが、以前、私の友人から、作者として結末はどう描いたのかと尋ねられ、「自由に判断して欲しい」と答えたところ、「そこを何とか」というやり取りが続いてしまい、参りました。（笑）

小説を読むとき、途中で中断して、自分ならどう展開させるかを考えてみてください。

いろいろとお話してきましたが、とにかく小説を楽しんでいただけたらと思います。

本日はありがとうございました。

講演会後も楽しみがたくさん

講演会終了後は、参加者からの質問の時間がありました。小説を書かれている方の参加も多く、創作上の問題についても、ひとりひとり丁寧にお答えくださいました。

最後は、薄井氏の著作をお持ちいただいた方々に、気軽にサインに応じられていました。記念として富岡分館にも、色紙にサインをいただきました。館内に展示をしていますので、ぜひご覧ください。

今後も、ひとりでも多くの方に図書館に興味を持っていただき、読書に繋がる様々な企画を実施したいと考えています。

図書館活用法

～インターネットを使って快適に～

所沢図書館のホームページをご覧になったことはありますか？

図書館ホームページには、利用案内、お知らせ、所蔵資料の検索など、いろいろな機能があります。

今回は、資料（本・雑誌・DVD・CD）の予約についてご紹介します。

あなたの図書館ライフが、より身近に便利になること請け合いです！

インターネット環境がないという方は、図書館の利用者端末、インターネット端末でご利用いただけます。

操作方法など、ご不明な点がございましたら、お気軽に職員にお尋ねください。

＊利用者端末、携携電話では、利用できない機能も一部ございます。あらかじめご了承ください。

予約に必要なモノ

ホームページから図書等の予約をするには、利用券のほかにパスワードの登録が必要です。まだパスワードを登録されていない方やお忘れになった方は、図書利用券とご自身の身分証明書（運転免許証・保険証・学生証等）をご持参の上、お近くの図書館で申請してください。

パソコンだけでなく携帯電話、スマートフォンでも、ご利用できます。

☆新機能☆ シリーズ予約

その名の通り、シリーズを順番に読みたい時に、まとめて予約ができる便利な機能です。上巻から読みたかったのに下巻が先に用意されてしまった…などといったことを防ぐことができます。

２冊以上の予約候補本を選択し、予約候補一覧のチェックボックスにチェックを入れ、シリーズ予約指定をクリックすると、指定した順番で準備されます。

☆新機能☆ ブックリスト

気になった図書等を、メモ的に記録できる機能です。予約枠数に空きがない時、気になる新刊をメモしておいたり、調べものに必要な資料などをリスト化して、選定するなど、使い方次第で様々に役立ちます。

＊予約機能とは異なります。

☆新機能☆ 新着資料案内メール

メールアドレスと好きなジャンル・作家などを登録しておくと、該当の新着図書等が入ったときに、メールで案内を受け取ることができ、いち早く予約ができます。

また、所沢市ホームページより登録できる「ところざわほっとメール」で、休館情報、イベント情報など、図書館からのお知らせを配信しています。こちらも、ぜひ、ご登録ください。

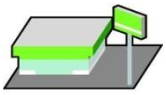
＊ほっとメールは、所沢市のホームページをご確認ください。

コンビニ取次

予約図書等を、市内６か所のコンビニエンスストアで受け取ることができます。

予約入力時、受取希望館を「コンビニ」に設定し、さらに受取希望ポイントで店舗を設定していただければ、ご指定の店舗に配送いたします。

受取期日内（１週間）であれば、24時間いつでも受け取れます。図書館の開館時間中にご来館できない方でも、ご利用できます。



詳細については

各機能の利用方法につきましては、図書館ホームページの【図書館のご案内】・「コンビニ取次サービス」・「よくある質問」などに記載があります。そちらの説明も合わせて、ご覧ください。

より良い読書ライフのため、大いに図書館ホームページをご活用ください！

あなたの街の図書館から ～市内7館の分館と1校の小学校図書館からのお知らせ～

所沢分館

11月17日（土）と18日（日）に図書館まつりを開催いたしました。17日は「飛びだす絵本作り」や館長&男性職員による「特別おはなし会」が行われ、『どうぞのいす』や『だいふくもち』などの楽しいお話が登場しました。18日は、オーブントースターを使っての「プラ板作り」や「折り紙」、「ぬり絵」などのイベントで盛り上がりました。

椿峰分館

11月17日（土）と18日（日）に図書館まつりを開催いたしました。大人の方からお子様まで、たくさんの方にご参加していただきありがとうございました。

今回、図書館まつりで行った、「親子おはなし会」は、今後、奇数月の第三水曜日に定期的に開催していきますので、是非ご参加ください。

狭山ヶ丘分館

11月24日（土）と25日（日）の図書館まつりに、お集まりいただきありがとうございました。

カウンター前に設置した「本の紹介くじ」は、一般向けに「旅」「謎」「癒し」と子ども向けをそろえ、今まで読んだことのないジャンルの本と出会っていただく機会として、お楽しみいただきました。来年もお気軽にご参加ください。

富岡分館

近頃めっきり寒くなり、畑などでは霜が降りるようになりました。このような季節には、暖かい部屋で読書をしてはいかがでしょうか？

11月の図書館まつり、富岡文化祭では、たくさんのご来館ありがとうございました。富岡分館では、皆様が利用しやすいように、旅行ガイドと地理関係の本をまとめて書棚におきました。ぜひ、ご利用ください。

吾妻分館

11月10日（土）と17日（土）に図書館まつりを開催いたしました。「トベアをさがせ！」には、お子様がたくさん来館され、トベアのしおりを手にしては笑顔を見せていました。「似顔絵を描こう」、「科学で遊ぼう」のイベントには、親子連れでの参加が多く見られ、講師の熱いお話と実演に引き込まれる子どもたちの姿が印象的でした。

柳瀬分館

すっかり冬となりました。柳瀬分館の近くでは霜柱を踏んで遊ぶ子どもたちの姿が見られます。「寒い冬はこたつが一番！」ということで、柳瀬分館では冬の期間、おはなしの部屋にこたつを置きます。こたつに入って読書などいかがですか？

また、毎週土曜日の「おはなし会」、月一回の「親子おはなし会」への参加もお待ちしております。

新所沢分館

図書館だよりを三種類創刊しました。タイトルを皆さまから公募し、一般とティーンズ向けが「読むトコ」、児童向けは「よむ・よむ・たより」となりました。また、「親子おはなし会」のある第2金曜日の10時～12時に、小さなお子様連れのお母様が気兼ねなく利用していただける「赤ちゃんタイム」を設けました。詳細は新所沢分館にお問い合わせ下さい。

松井小学校図書館

11月4日（日）に図書館まつりを開催しました。「おはなし会」では「語り」や「エプロンシアター」を、工作では「六角がえし絵本」を作りました。たくさんの皆様にご来館いただきありがとうございました。

これからも土曜日には不定期で「おはなし会」や「たのしい工作」を開催いたしますので、親子でいらして下さい。

対面朗読ボランティア登場

対面朗読
ボランティア
松浦さん

図書館での私の仕事は、対面朗読です。仲間は15名余り。利用者（視覚障害者）のリクエストに応じて、本や雑誌を読んでいます。

テープ朗読との違いは、必要な部分の拾い読みができたり、テープ図書になっていない本や雑誌などの朗読がすぐ出来ることでしょうか。

利用者の忍耐強さのおかげか、20年近く続けていますが、初見なのでいまだにドキドキ。でも初見だから続けられたのか（下読みのしようがないので）とも思っています。

※　初見…初めて見ること

おはなし会ボランティア登場

おはなし会
ボランティア
Aさん

私が所属する「ストーリーテリング勉強会」は、図書館の養成講座終了後に出来た会です。終了後も毎月勉強会を開き、各人が素話（すばなし）で「おはなし」の魅力を子ども達に伝えています。

図書館まつりの「おはなし会」でも、たくさんの子ども達と楽しい時間を共有する事が出来ました。最近はお母さんに混じって、お父さんの姿も増えているようで、うれしい限りです。子ども達の心の引出しに、心の糧となるような「おはなし」を届けたい、そんな思いで続けています。

※　素話…本を読まずにお話を語ること

蔵書点検のお知らせ★

所沢図書館では、年に一度、蔵書点検を実施しています。本館と7分館に分かれ、別々に実施いたします。

本　館　平成25年2月18日（月）～2月22日（金）

各分館　平成25年2月25日（月）～3月1日（金）

☆蔵書点検期間中は、休館となります。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

編集後記

◆首・肩・背中が凝ってツライ。元気なカラダが欲しいなあ。（Q）

◆変革の時代。今年は何が起きるのか。期待と不安。（A）

◆お鍋を囲み団欒の冬を満喫！今年もよく食べ、よく笑いたい。（H）

◆紅葉から冬景色に変わった図書館 - 静寂と癒しの場です。（M）

◆新年を迎え、一年がだんだん短くなっている気がする…御年頃!?今年で何歳？は御法度。（T）

◆へび年…白蛇は幸運を呼び、蛇皮は金運上昇!?あやかりたい。（O）

編集発行：所沢市立所沢図書館　〒359-0042　所沢市並木1-13

ホームページアドレス　パソコン　https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp
携帯電話　https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/k

	電話 / FAX		電話 / FAX
本　館	04-2995-6311 / 04-2992-1421	富岡分館	04-2943-3636 / 04-2943-6680
所沢分館	04-2923-1243 / 04-2928-8195	吾妻分館	04-2924-0249 / 04-2928-8250
椿峰分館	04-2924-8041 / 04-2928-8148	柳瀬分館	04-2944-4023 / 04-2945-7236
狭山ヶ丘分館	04-2949-1193 / 04-2949-8577	新所沢分館	04-2929-1905 / 04-2929-1906
松井小学校図書館	04-2992-2796 / 04-2992-2797		

2013年1月1日発行　復刊いずみ3号（通巻81号）